

第54回 森とのふれあい

『森の恵みのクリスマスリース作り』を開催

11月21日(日)に、4回目となるリース作り講習会を開催しました。

講師のひとり古川範子さんは、町内で華道教室を開いており、またドライフラワー、リースなどを町内の金融機関などで展示し訪れた人々の目を楽しませています。その作品の美しさには定評があり、是非この機会に古川さんからリース作りを学びたいと21名の応募がありました。

最初に、センター職員からハサミなどの道具を使う上での注意点などの説明を受けた後、

- ① トドマツの先葉を約15cmの長さに切り揃え、ひとにぎりの束を15束程用意する
 - ② リングに①で用意した先葉の束を順序よく縛り付けリースの原形を作る
 - ③ ②のリースにベル、リボンを飾り付けた後、オーナメント(赤い造花)やドイツトウヒ、カラマツ、ストロブマツなどのマツカサを3~10個程縛りつける
- などの作業を行い、約3時間で21個のクリスマスリースが出来上がりました。



先葉をリングに巻いています

今年はリースの飾り付けに多くの時間がとれたこともあり、どのリースもゴージャスな仕上がりがりとなっていました。会場のあちらこちらで、自分の



リボンを作る目は皆真剣でした



思わず笑みがこぼれました

作品を手に取り「すてき!」という声が聞こえてきました。

森林の香りが家を包み、すてきなクリスマスがきっと迎えられますでしょう。

知床横断道路冬休み

～冬期交通規制が実施されています～

国道334号知床横断道路の斜里町岩尾別(自然センター前)～羅臼町湯の沢間は、来年4月下旬まで冬期間の全面通行止めになっています。

また、主要道道知床公園線は、斜里町岩尾別橋(岩尾別ユースホテル前)以北について、①知床大橋、カムイワッカ湯の滝方面は来年5月27日11:00まで、②このうち知床五湖までは来年4月22日11:00まで冬期間の全面通行止めになっています。なお、岩尾別ユースホテル前～自然センター前間については、12月1日18:00から夜間通行止めになり、来年3月31日8:00までの間は、8:00～18:00のみ通行可能です。



北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真:エゾシマリス)

知床は今

知床連山が雪で白くなり落葉が進み、木々の枝が顕わになり冬の使者であるオオワシやオジロワシの姿が見られる季節になりました。

オオワシは翼を広げると220cm～245cmになる日本最大の猛禽類です。オジロワシは翼を広げると180cm～230cmでオオワシよりも一まわり小さい猛禽類です。

主にオホーツク海北部沿岸やサハリンから10月末から11月初旬に知床へ越冬のためにやって来ます。今年は秋鮭の遡上数が多く遡上シーズンの終わった斜里の海岸には役目を終えた鮭が打ち上げられカモメがはんでいる姿が見られました。又現場ではヒグマの姿を例年になく数回も見ました。



オオワシ

今月上旬に空高くオオワシの姿を見ることができ、その勇壮な姿に感動しました。冬になると、流氷の塊の上や断崖沿いの木の枝の上に止まるオオワシやオジロワシの姿をよく見かけます。

仕事で斜里からウトロへ向かう道路沿いの山裾に冬毛に変わったエゾシカがいました。動物たちは長い冬に向けて体力を養うために励んでいるようです。ウトロ市街地も観光客が減り夏の間の賑わいがなくなり厳冬の冬が近づいています。



エゾシカ

第53回 森とのふれあい

『ドングリ調査とイチイ鹿害対策(網巻)体験』を開催

第53回「森とのふれあい」を、10月16日(土)に開催しました。

今回も昨年同様に、斜里町立知床博物館(中川 元館長)の『知床海と森の学校』との共同開催の形でいました。

当日は、朝から雨がちらつき天気は今ひとつでしたが、斜里町内小学校4年～6年生からなる『知床海と森の学校』のメンバー28名中23名が参加しました。

午前中はウトロの「イチイ林木遺伝資源保存林」で、網巻き体験を行いました。

まず、職員からイチイ林木遺伝資源保存林の設置目的などについて説明を受けました。続いて、輪尺で胸高直径を測り、必要な網の長さを計算し、その長さに網を切断した後、イチイの幹に巻き付けました。天気が悪いのでとても寒く、白い息を吐きながらの作業となりました。

午後からは、岩尾別に移動し、ミズナラの堅果(ドングリ)調査を体験する予定でしたが、現地途中の岩尾別川で熊2頭が鮭を捕っており、とても危険な状態だったので、中止となりました。

堅果調査体験は中止になり残念でしたが、初めて見る熊に驚きや喜びの声をあげ、町では味わえない貴重な体験をしました。



イチイに金網を巻き付けました



知床の紅葉を背景に全員で記念撮影しました

ミズナラ堅果結実調査の結果がまとまりました

～台風による落果のため、数値的には並作でした～

「ミズナラ堅果結実調査」の平成16年度の調査結果がまとまりました。

この調査は知床半島の主要な樹種の一つであるミズナラのドングリの結実を調べていて、平成元年度から毎年実施しています。調査地は知床半島の岩尾別15本・イタシュベツ10本の二箇所に設けており、全部で25本のミズナラを調査木として選んでいます。ドングリを集めるのは9月中旬から10月下旬まで、一週間毎に6回集めます。その方法は、各調査木の枝の下に、ドングリを受け止めるための寒冷紗(かんれいしゃ)で作った1メートル四方のトラップ(写真右)を調査木1本当たり3



青い袋がトラップです

個、全部で75個設置し、その中に落下するドングリを集めます。集めたドングリは一個ずつ重さを量り、重さ、個数を集計し樹冠面積に対する係数をかけて数量を算出します。

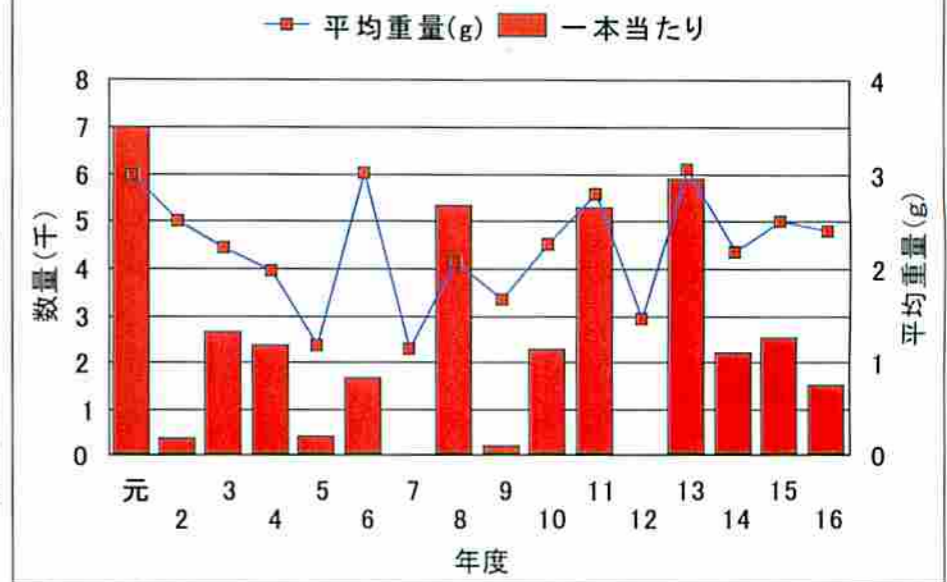
今年、トラップが動物に押しつぶされたりすることもありましたが、熊に出くわすこともなく、毎週水曜日に回収をした調査結果は右のグラフのようになりました。調査木1本当たりのドングリ数は平均1,519粒、

ドングリ1粒あたりの平均

重量は2.4グラムでした。今年、トラップ設置前の踏査では豊作では？と思われましたが、

まさにトラップ設置直前の9月上旬の台風によりまだ青いドングリが振り落とされて、結果は昨年より減少したものの並作となりました。

年度別 堅果個数及び平均重量



IUCN書簡に対する政府回答を説明

～今年度第3回地域連絡会議を開催～

11月2日(火)に、「知床世界自然遺産候補地地域連絡会議」が斜里町産業会館で開催されました。地域連絡会議とは、世界自然遺産候補地「知床」の適正な管理のあり方を討つため、昨年10月に設置されたものであり、通算7回目の開催となります。

席上、環境省の担当者から、8月20日付けでシェパード氏から届いた書簡などに対する政府回答案として、①推薦地の海域部分、②推薦地内の河川工作物、③エコツーリズムに関する戦略の開発、④エゾシカの管理、⑤モニタリングのための指標等の開発の各項目について、説明がありました。

続いて、出席者から、①各方面の専門家から意見を聞き調査してほしい、②透明性が高い中でモデルツアーを検討してほしいなどの要望が出ましたが、回答案については了承されました。

最後に、今後、11月5日までに政府として回答を行う予定であること、併せて、IUCNは、12月末頃までに世界自然遺産としての評価を行い、来年2月末までにユネスコ世界遺産センターへ報告書を提出する予定であること、更に、その報告書をもとに、来年7月に南アフリカのダーバンで開催される第29回世界遺産委員会で登録の可否が審査・決定される予定であることなどの説明があり、会議を終了しました。



80名余りの参加がありました